

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091400061		
法人名	社会法人誠和会		
事業所名	グループホームすみれの花		
所在地	福岡県福岡市早良区荒江3丁目20番3号 (電話) 092-833-1880		
自己評価作成日	平成 27 年 7 月 7 日	評価結果確定日	平成 27 年 9 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【①利用者本位のケアを心掛けている。】 利用者の能力・趣味・趣向・生活の継続性等を考慮した上で、利用者の思いを大切にし、その思いに添える支援を行っている。能力を発揮できる、役割作りや季節感を持って頂く工夫を心掛けている。

【②家族との連携】 利用者の変化等、細目に報告、相談を行い、ご家族と協力しながら一緒に支えています。家族参加行事を行い、利用者・家族・職員間の交流を図り、信頼関係を構築しています。

【③職員の質の向上】 事業所内・法人内では年間を通じて計画的に職員研修を実施し、法人外では勉強会に行く機会を創出し、職員の知識・技術の向上に繋げています。また、他事業所との連携・情報交換や交流も推進し、職員の質の向上を図っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 7 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅街に溶け込み、そこが一つの自治体ように思われる緑に囲まれた空間。ベンチでは地域の子どもの交流があり、静かにゆっくり時間が流れているようだ。

運営推進会議で提案された利用者の小さな願いを実現する「願い・叶え」の取り組みが実施されている。利用者の心からの笑顔を見たとき、職員は喜びを感じている。

利用者は生き生きと生活し、それを支える職員も生き生きとしている。スタッフ間の関係が良好で、支援方針が一貫している。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「すべての方の人格を尊重し、共に歩み共に喜びお一人お一人が主体性を持って地域での生活が継続できるよう自立のお手伝いをさせていただきます」を共有し、利用者対応の判断軸となるよう、会議などで理念理解を深め、実践に繋げている。	事業所には独自の理念があり、毎日朝礼時に唱和している。理念について話し合う機会が多い。対応に迷ったとき、利用者の認知症が悪化した場合も、その都度理念に立ち戻り、個人を尊重できる支援を考える。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域掃除、夏祭り、文化祭、敬老会、運動会など地域の行事に積極的に参加している。顔なじみになり、優しく声をかけて下さったり、見守りや車いすの移動等お手伝い下さる。近隣マンションより、AED貸出の申し出があり、緊急時対応法等、地域の方と学ぶ機会を計画中である。	自治会に加入し、地域活動や地域行事に積極的に参加している。運営推進会議を通し関わりを持つ地域住民が増えている。敷地内のベンチで利用者がくつろいでいるところに、地域の子どもたちが蝉取りや山鳩を見に来たりと、自然に交流が深まっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、地域の方の相談に応じたり、認知症サポーター養成講座、成年後見制度、腰痛予防教室等要請に応じ勉強会を開いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、利用者、家族、民生委員、包括支援センター、行政などの参加を経て、サービスの提供状況を報告している。会議の中で、地域の方、地域包括から、意見や地域での近況報告を頂き、施設との連携が取れている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、行政や地域住民参加のうえ、積極的に意見交換されている。会議で出た意見をもとに、避難訓練や成年後見の勉強会を行った。現在取り組んでいる「願い・叶え」の取り組みも、個人の願いをかなえてほしいと家族から出た意見をもとに実現した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政機関（いきいきセンター）へ出向き、困難事例の相談をしたり、介護保険制度についての疑問点をうかがったり、運営推進会議に参加して頂き、助言を得たりとわからない事があったら随時連絡している。	行政とは日頃から積極的に行き来している。主にケアマネジャーを通じ相談することが多い。行政は事業所の実情だけでなく、利用者の状況を把握しているため、小さな事柄も相談でき、協力関係を築いている。勉強会の講師を依頼したこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束委員会が設置されており、委員を中心に取り組んでいる。職員も、法人内の研修会で身体拘束に関して正しい知識が得られるよう研修計画に入っている。	身体拘束に関する取り組みは、研修会・職員会議・リスク会議等その都度意識を高め取り組んでいる。入所間際の不穏な利用者に対し、職員個々の対応を見直し、短期間で落ち着いた状態に導くことができた。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回のグループホーム会議、カンファレンスなどさまざまな場で言葉遣いや態度に問題が無いかに注意しあっている。施設内で勉強会も行ない、参加できない職員も資料を閲覧し、知識の向上に努めており、外部研修にも参加している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、法人内での研修や勉強会で制度について学び、理解を深めている。又、ご家族に向けて、地域包括講師より成年後見制度について学ばれる機会を設け、勉強会後相談会を開いた。	権利擁護に関する制度の説明は契約時に行っている。運営推進会議の意見で勉強会も実施した。職員は研修会や会議で制度について学ぶ機会がある。問い合わせがあった場合は、パンフレットを用い説明ができる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初期導入時の関わりが非常に大事なので、申し込み→面談→契約という手順で、利用者様やご家族の不安や疑問を尋ねながら、他職種による説明を行なっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置すると同時に、玄関にご意見箱を設置している。家族の面会も多く、その際意見が気軽に職員に言えるようご家族とのコミュニケーションを心掛けている。行事や食事等、アンケートを実施し出された意見は職員間で検討し運営に反映している。	利用者本人は日常的に意見や思いを伝える機会がある。職員は同じ時間を共有することで思いをくみとり、表情や様子から対応している。家族は運営推進会議に参加し、積極的な意見を言われるが、来訪時等日常的にも意見や要望を言う機会がある。利用者の意向を代弁しているとして、運営に反映する。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のグループホーム会議、申し送り、などで意見や提案を聞き運営に反映させている。また、タイムカードの横にご意見ポストを設置したり、面談の機会を設け、悩みや改善点について直接話すことが出来る。	職員は日常的に意見を言う機会があり、管理者は積極的にその意見を聴き、運営に反映するようにしている。また、アンケートや個別面談を実施し、管理者は職員が働きやすい状況をつくための勉強会にも参加している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	永年勤続者には永年勤続功労が実施されている。系列法人内に保育所を設置するなどして、働きやすい職場環境を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	本人の資質や介護への情熱を重視した採用を行っており、事業所には性別、経験、年齢など様々な職員が従事している。得意分野で、職員の能力を発揮してもらっており、勤務形態は、各人の状況に合わせて対応している。	採用に関し、性別や年齢等は重視していない。個々の本質や意欲を重視している。仕事の形態や家庭事情等個別に対応している。研修会や資格取得は積極的に行えるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	新採用時及び年間を通して計画的に『高齢者に対する尊厳』や『プライバシーの保護』、『高齢者虐待防止』などについて教育を実施している。時には外部機関に来ていただいている。	新規採用時の研修は、高齢者や障害者等の人権学習を年間を通じ行っている。またそれ以外の職員も人権に関する研修は、内部外部を通じ行っている。研修を通じ、職員は現場の支援の振り返りを行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で、新人教育プログラムに沿って新人育成に取り組んでいる。又、職員は自己目標計画をたて、実施し、今後の課題を確認しながら力量をチェックしている。管理者は職員と面談し、本人の目標設定と行動計画を把握し、力量のチェックを行っている。又本人の希望を取り入れながら、段階に応じた内・外部研修を進めている		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設と交流を図ると共に、入居空き状況や入居希望者の紹介等行っている。運営推進会議には、近隣の小規模多機能施設職員が参加して頂き情報交換し、サービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時には、本人・家族の思いが汲み取れるよう特に時間をかけて、話をしている。話を伺いながら、「何を望まれているのか」「何が、困っているのか」を模索し、施設での生活ニーズと一緒に考える。又、ご本人とよりなじみの関係を作れるよう担当制にしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様。家族の希望に合わせて受け入れられるよう努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに詳しい状況を伺い、「今、何が必要なのか」を検討している。必要があれば、併設の他事業所職員とも相談している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、敬う気持ちを持って日々接している。また、一緒に日常生活を送り「できることを奪わない」「その人らしく」を大切に、共に支え合いながら喜怒哀楽を共にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に気軽に話し合える雰囲気を作っている。また、その都度ご利用者様の状況を家族に相談し、ご家族の思いを尊重している。行事のお手伝い、他病院への受診の依頼や、入居者の発する想いをご家族へ仲介し、担当者会議にてご家族にも参加して頂きプラン作成に役立っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会時には、楽しいひと時を過ごして頂ける様、お茶や場所を配慮している。贈り物が届いたら、ご本人に電話やお手紙を書いて頂くよう促したり、ご家族に報告し、関係が続くよう支援している。	利用者の馴染みの人や場所は、入居時に時間をかけ、本人や家族から聴取している。知人や友人の面会時は、職員が調整役になり、その関係が継続するよう計らっている。本人の希望で、故郷に家族に連れて行ってもらい、そこで以前の暮らしや場所等思い出に遭遇できる機会を設けたこともある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を常に観察し、職員間で共有化しながら、家事の分担、レクリエーション、体操、席順などの配慮を行っている。孤立しやすい入居者には、職員が仲介し、ご本人の得意分野を生かしたレクリエーション等で、他との関係作りを心がけている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所になり、契約終了になった入居者様にも出来るだけお見舞いや様子を伺いに訪問している。併設施設へ入所された方には、面会に行ったり、行事等でお会いする際声をかけ、関係継続を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に十分アセスメントを行い、日常のかかわりの中でも一人一人の思いや希望、意向を把握するため会話を多く交わし、職員間の情報を共有し、検討している。自分で訴えられない方に対しては、表情や状態を観察し、どのようなことを望んでいるのか、どうしたいのかを見極め、対応している。	日頃から利用者の言動や表情から、それぞれの思いや意向を把握するようにしている。意思疎通が難しい利用者は、家族や関係者から情報を得ながら本人本位に検討するようにしている。夫との思い出の地、二見ヶ浦に行く等願え叶えの取り組みを行っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に、職歴や趣味・趣向、サービスを利用するにいたった経緯や今まで利用したサービス等・・・について幅広く話を伺っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中で、生活リズム、過ごし方、心身状態の把握に努めている。その方の出来る事、解ることを常に観察し、今の状況を読み取り、対応をしている。日々の記録、会議や申し送りを通して情報を共有化している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員などで随時情報交換を行うと共に、月一度のモニタリング、必要に応じてカンファレンスを行っている。ケアプランは3か月から6か月で更新時に担当者会議を行い、定期的に見直しをしている。月に一回のグループホーム会議や申し送りなどで意見交換を行い、ケアプランに反映させている。	利用者・家族・職員・看護師・医師の意見や気づきを取り入れ担当者会議を開催し、利用者の状況にあった個別で具体的な介護計画を作成している。介護計画は家族から了承した署名と押印をもらっている。3ヶ月に1回、又は、利用者の状況変化に応じて介護計画の見直しを行う。その都度家族に報告をして、了承した署名と押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに関する記録や生活記録があり、特記事項を記入している。また、月2回経過記録を書き、計画書の見直しの際にも活用している。入所時や行動の変化で、対応の検討が必要なときは、個人ノートを作り、細かい情報の共有し、検討後、介護計画に取り入れ、ケアの統一を図っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に伴い、検討し個別に合わせたプラン作成後、本人様に添った支援を行なっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員らと運営推進会議や第三者委員などを通じて意見交換を行ない、地域との関係強化を進めている。町の商店への買い物、クリーニング店への同行、地域行事への参加し交流できる機会を確保している。又、利用者が近隣小学校にベルマーク持参したり、公民館にペットボトルの蓋を持参している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が協力病院であることから、入居時に事業所の協力医へ変更する場合もあり、受診や定期検診を実施している。眼科、物忘れ外来等、かかりつけ医が違う場合には家族が同行される。物忘れ外来やかかりつけ内科受診の際には、入居者の情報提供を書面にて定期的に行っている。	契約時に利用者の受診経過や希望を確認し、要望に沿うようにしている。受診の付添は家族に協力依頼している。受診前に利用者の状況報告を文面で作成し、家族に受診時持参してもらっている。緊急時は受診の付添は職員が対応している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師との連携を取っており、夜間もオンコールにて報告・指示を受けられるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した場合は、お見舞いに出向くと共に、看護師や主治医などと情報交換を行なっている。家族とも情報を共有しながら、退院後も備えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について話しています。また、ご本人や、延命についてもお話を伺い、アンケートに答えて頂いている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針が明文化されている。契約時に説明を行い、利用者や家族の意向を確認し、書面で記載してもらっている。状況変化に応じて、家族や利用者へ意向を大事にしながら、話し合いを行い支援している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人で年間を通じて計画的に緊急時の対応や、救急蘇生法について内部研修を実施している。また、平日頃より緊急連絡ルートの確認を実施している。随時、外部研修にも参加している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、併設施設と合同で昼夜を想定した避難訓練を実施、消防署の職員にも参加してもらっている。消防署員に設備を見ていただいて助言を仰いだ。訓練には、地域の方の参加があり、少しずつですが、地域の協力が得られている。	災害対策についてのマニュアルは作成してある。年2回消防署や地域住民の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方を行っている。非常用備品は併設施設の倉庫内に準備されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物は、目に触れないところに収納している。職員は、利用者様に対して馴れ合いにならないように、グループホーム会議やカンファレンスを通じて言葉遣いに関して確認を行なっている。また、個人情報の取り扱いやプライバシー保護について研修を行なっている。	職員は、利用者の目が届きにくい場所で記録をしない、利用者の前で大きな声で利用者本人のことを話さない等声かけや対応に配慮をしている。人権の尊重とプライバシーについて内部研修をしている。月1回介護部長が、プライバシーに配慮した利用者への声かけや対応ができていないか点検している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いを話しやすい雰囲気を作るよう努めている。飲み物の選択、入浴、レク活動、その日の想いや希望をその都度うかがうようにしている。上手く言葉が出ない方へ複数個の選択肢を用意し発語しやすいような声掛けや判断基準をご本人だったら、どうしたいか？を心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの動きを見て、居室で過ごしたい方、本を読みたい方、お話をしたい方、動きを把握して自分のペースで生活していただいている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用しているが、個人で行きつけのある方は家族と行かれている。朝の整容時、くしやピン等準備し自己にて行って頂いたり、洋服も好きな物を選んでいただいています。お化粧品が不足したら、ご家族に連絡している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士にメニューを用意してもらい、主に厨房で作り、汁物やおやつ作りを入居者と行っている。行事食や寿司バイキング等皆様に楽しみにされている。好みのリクエストで昼食を作ったりもしている。一人一人の出来る力を生かしながら、調理、準備、片づけを利用者と一緒に行っている。	職員と利用者が一緒に盛り付けや後片付けをしている。利用者の状況に合わせて、副食を刻んだりとろみをつけている。行事食等で職員と一緒に食事している。らっきょうを漬けたり、しそジュースや梅ジュースを利用者と職員と一緒につくっている。利用者の嗜好を取り入れ、すき焼きや焼き肉パーティをしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量をチェックし、摂取量の管理を行っている。摂取量の少ない方にはこまめな声掛けや、好みの飲み物の提供、再度食事の声掛けを行っている。随時食事の形態や、トロミ等の検討を行っている。月一回の体重測定にて、体重管理を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じて、毎食後声掛けや口腔ケア介助をし、義歯は毎日ポリドントにつけている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄リズムを把握し、失禁なく快適で清潔が保持されるよう心がけ、必要な方には時間や本人のサインを観察して誘導している。又、入居時おむつやリハビリ使用であっても、その方の力や声掛けにより、トイレでの排泄に向けた取り組みを心がけている。	利用者の排泄サインやパターンを把握し、プライバシーに配慮しながらさりげなく誘導をしている。尿意のない利用者は、そわそわして落ち着きがない等排泄のサインを察知し、身体機能に応じて介助をしている。利用者が失禁した時には、他の利用者に気づかれないように個室に誘導し、対応している。パット類は利用者の状況に応じて、排泄委員を中心に一人ひとり時間や種類の見直しをしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表にて、一人一人の排泄状況を把握し、オリゴ糖や起床時の冷たい牛乳の提供や散歩を促し、自然に排便できるよう支援している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人一人の生活習慣や好みの時間を把握し入浴の時間を考慮し、入浴の提供を心掛けている。希望があればいつでも入浴できるようにしている。入浴拒否のある方へは声掛けの工夫やタイミングを考慮したり、施設の温泉の利用をする等気分転換に努めている。	入浴は本人の生活習慣や希望に合わせて、毎日入浴設定をしている。入浴を嫌がる利用者には、タイミングをみながら声かけをしたり、気が合う職員が声かけをする等声かけの仕方を工夫している。菖蒲湯・柚子湯をしたり・入浴剤を入れて、入浴が楽しめるようにしている。入浴中の会話は、利用者に思いを引き出す機会にもなっている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣を考慮し、適度な午睡や運動・就寝の支援を行ない快適な生活リズムができるようにしている。又、不眠傾向のある方は、足浴や温かい飲み物の提供、一緒に過ごすなど安心して頂ける工夫を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報提供表をファイルに入れていつでも管理できるようにしている。予測される副作用については確認すると共に、薬が変わった場合には、申し送りを通じて周知させている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、食事の準備、片づけ等その方の出来る事を探し、役割を持って頂いている。好みの音楽を聴いて頂いたり、一緒に歌ったり手芸、読書等今までの嗜好を継続して頂いている。喫煙習慣のある方には、希望に応じ職員が付き添い対応している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物洗濯干し等希望に沿って外出している。月に1回以上は遠方へ外出計画を立てて出かけている。ご本人の希望で自宅へ仏壇を拝みに行かれたり、願叶えにより、ご本人の願いに応じ、ご家族と協力して、外出援助を行っている。	利用者の意見を取り入れながら、外出の計画を立てている。散歩はほぼ毎日行っている。季節に応じて、公園の花見や山笠見物、紅葉狩り、スーパーの買い物や喫茶店に行っている。普段いかない場所のドライブには、家族と一緒にいくこともある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて金銭はご自分で管理されている。自己管理が出来ない方も、安心に繋がれば、お財布を持たれて紛失しない様見守っている。お買い物も支払いが、自分たちで出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望がある場合には、かけていただいている。携帯電話を持っている利用者様もあり、家族や友人とコミュニケーションを図っている。贈り物が届いたらご本人にお電話して頂いたり、お礼の葉書を出すなど支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた明るい施設であり、落ち着いた雰囲気の本調のドアになっており、安心して出入りできる空間になっている。温度・湿度にも注意し、空調や加湿器を使って快適な空間の維持に心掛けています。壁には写真や絵を飾り季節の花を飾っている。	玄関は利用者が季節の花を活けてあり、蛤やどんぐりで作成した作品が飾られ、家庭的で落ち着ける空間になっている。壁には利用者の習字や縫い物の作品が飾ってある。カーテンで陽ざしの調整をしている。職員の声や音楽・テレビの音も調度よい。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横の椅子、廊下の椅子、リビングのソファなどで思い思いに過ごされている。廊下を歩かれ疲れられた際には、ソファに座ってくつろいだり、食堂テーブルにて気の合う仲間と談笑したり思い思いに過ごされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り今まで使っていた生活用品・写真などを持ってきて頂き、少しでも安心して過ごせる、自分の居場所だと思っただけのような空間になるように配慮しています。ベット以外でもリラックスできるイスやソファも置かれ本人の好みに環境を整えている。	家族の写真が飾られたり、お位牌やテレビ、ソファ、机等を持ってこられ、利用者らしさが感じられる居室となっている。空気洗浄機や加湿器等居心地よく過ごせるものを持ち込まれている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状況に合わせた家具や物品の配置を行い、手すり等を利用し出来るだけご本人の力で行動できる環境を作っている。歩行不安定で見守りが必要な方は、センサーマットやドアに鈴を使用し危険防止につとめている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない